

# 読書を通じて豊かな人間性を育む 子ども読書活動推進計画

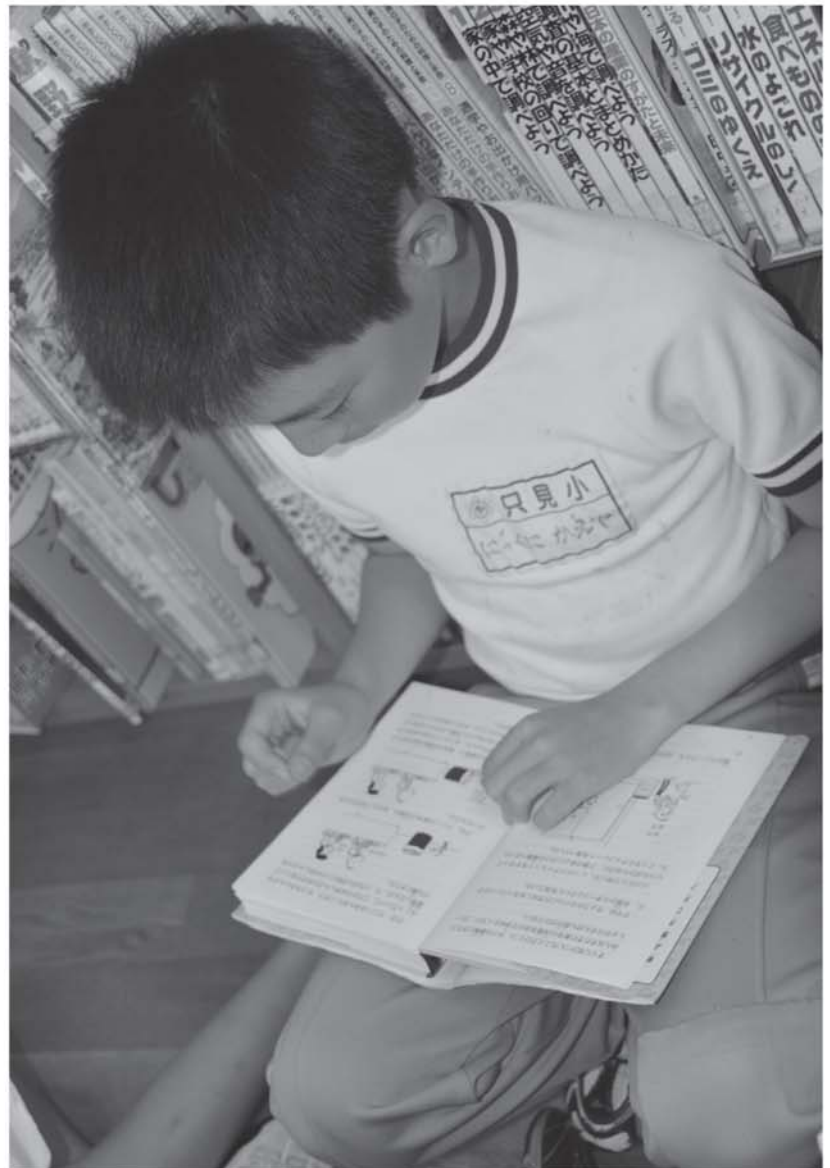
読書によって、子どもは新しい世界を知り、新しい自分を発見していく事ができます。さらに、良い本と出会うことで多くのことを学ぶとともに、豊かな人間性も育まれます。

しかし現在、子どもの読書離れが進んでいると言われています。

## 読書活動の現状

平成24年度に福島県教育委員会で実施した「読書に関する調査」によると、1カ月間の読書冊数は小学生では8冊以上読んでいる児童が50%程度となつていますが、中学生・高校生では0〜2冊程度となつており、年齢が上がるにつれて読書離れが進んでいる状況が見られます。

教育委員会が町内の保育所、小・中学校、高校の保護者を対象に、家庭における子どもの読書活動の実態を把握するアンケートを実施したところ、保護者の皆さんは乳幼児期からの読み聞かせや、読書に親しむ機会を与えることが重要という認識をしている事が分かりました。



## 子ども読書活動推進計画を策定

只見町教育委員会はこれらのアンケート結果を受け、子どもたちが本に出会い、読書に親しみ、読書の楽しさ、すばらしさに気づくとともに、読書を通じて豊かな人間性を育めるような環境づくりを目的とした「只見町子ども読書活動推進計画」を策定しました。

計画の期間を、平成26年度〜平成30年度までの5年間として、①子どもが読書に親しむ機会の充実、②子どもの読書環境の整備・充実、③家庭・学校・地域・行政等の連携の3つの基本方針に基づき取り組んでいきます。

具体的には次のページの取り組みを行っていきます。



▲教育委員会で策定した「子ども読書活動推進計画書」

▲「本を読む」ということには様々なメリットがあります



▲ブックソムリエと一緒に読書を楽しむ小学校の子ども達

## 1. 家庭における取り組み

保護者が行う子どもへの読み聞かせ等を通してコミュニケーションを図ることで、本から得られる心の豊かな部分を共有し、楽しむことで子どもが本を身近に感じ興味、関心を持ち、読書習慣が確立されるよう保護者への啓発活動に努めます。

また、地域の書店と連携し「ブックスハートプレゼント事業」として、本の贈呈や保護者に対して年代に応じたおすすめ絵本のブックリストを配布します。

## 2. 保育所における取り組み

保育士や図書ボランティアの読み聞かせにより、絵本にふれあう機会の充実を図るほか、只見学に関する絵本や紙芝居等を利用して子どもが地域に親しみをもてるようにします。「ブックスハートプレゼント事業」として保育所修了時には本を贈呈します。

## 3. 学校における取り組み

児童生徒が必要に応じて、いつでも読書に親しめるようにブックソムリエ(愛称)として人材を配置します。ブックソムリエは学校図書室等の整備、運営、管理や児童生徒への読書指導の補助業務などを行います。「ブックスハートプレゼント事業」として学校卒業時に本を贈呈します。



▲ブックソムリエ 菅家 成美 さん

## 4. 地域における取り組み

各地区振興センターの図書室は、保育所や学校との連携を図り、子どもの成長に応じた本を充実し、図書室の利用しやすい環境作りを行います。また、放課後子ども教室や子育てひろば事業の中で、読み聞かせを行います。

## 5. 支援を必要とする子どもへの取り組み

障がいがあり特別な支援を必要とする子どもも、安心して本を楽しむことが出来るように、障害の状況や発達段階に応じて、紙芝居・拡大写本・録音図書・展示併用本・字幕付きビデオ等の充実を図ります。

4月23日は「子ども読書の日」となっていますが、毎月第3日曜日(家庭の日)には、それぞれの家庭で親子で読書に親しんで頂ければと思います。